

災害に備えて訓練

5月13日 嘉瀬川・巨勢川一帯で

火災と間違えないでサイレンを吹鳴

火災と間違えないで



昨年の防災訓練から(唐津市で)

毎年つゆどきの大雨は、各地に大きな被害をもたらしています。今年もまたこの季節が近づいてきましたが、佐賀地方気象台の長期予報では、「大雨と半ばつの変動が大きく異常気象の年になりそう」といふことです。

そこで、市ではこれらの風

水害に備えて五月十三日(月

)早朝の六時から正午まで、

前夜からの大雨・高潮を想定

し、巨勢川(兵庫町、嘉瀬川

(嘉瀬町)を中心に行方不明者

日赤奉仕団および地元の方た

ちの参加協力を得て、水防工

法、救助、避難、炊き出しな

試し切りを行ってい。

「どうです、一つ貴殿のウ

デをみせてほしい」といわれ

て、引きさがるわけにもいか

ず、腰の肥前忠吉を抜いて切

りかかったが

右衛門忠吉は、現在の佐賀市

やわらかい紙

ばかりで、本庄江をつぶして荷

長瀬町に居を構えていた。原

料は島根県安来あたりから取

りよせ、本庄江をつぶして荷

揚げしていた。

勝茂は面白を失い、二ガニ

ウヂしまんをしていました。意地

と持つて来られない。部屋

隅にあった真鍮(しんちゅう

田代駅駄貢小路の真覚寺にあ

る。

(筆者は郷土史研究家)

名刀肥前忠吉

福岡博

江戸時代のはじめ、佐賀藩の御用刀鍛冶になった橋本新右衛門忠吉は、現在の佐賀市江戸城内の詰所に行くと、必ず「恐れながら私は紙切」といふ言葉を残す。その日、藩主の鍋島勝茂が江戸城内を行くと、必ず「恐れながら私は紙切」といふ言葉を残す。その日、藩主の鍋島勝茂が江戸城内を行くと、必ず「恐れながら私は紙切」といふ言葉を残す。

江戸城内

の詰所

江戸城内

の詰所